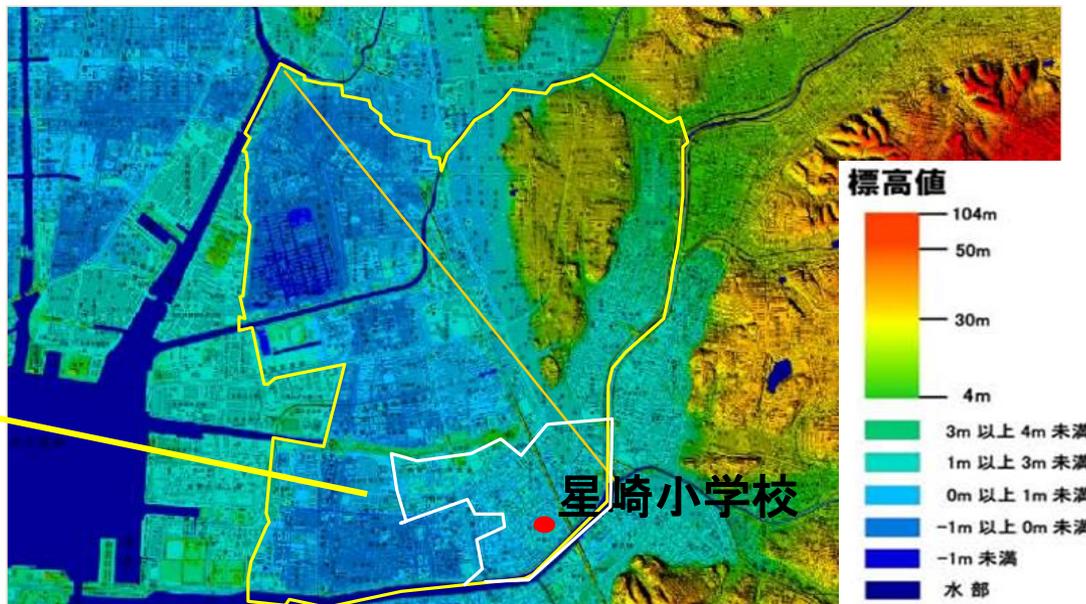
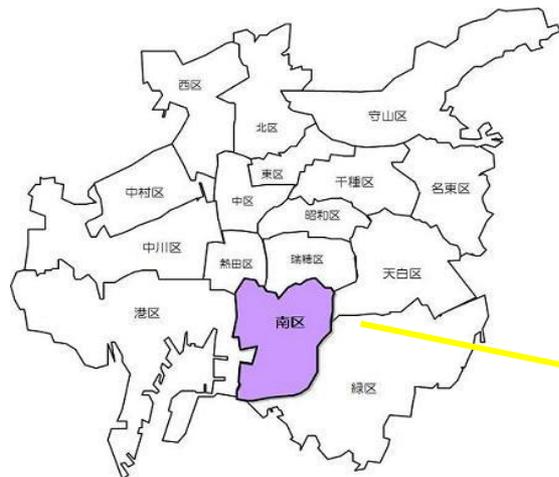


# 1. 星崎学区の特徴



「国土地理院デジタル標高地形図」

面積	1.993ha	65歳以上人口	1,564人(25.2%)
世帯数	2,748世帯	1人暮らし高齢者数	230人
人口	6,215人	高齢者のみ世帯	71世帯
		小学校児童数	368人



星崎学区(名古屋市南区)



## 2. 地区防災計画の取り組み状況

H27年8月より組織を結成し、活動開始

メンバー：学区会長、町内会長、民生児童委員、消防団、  
学区防災アドバイザー

NPO法人DoChubu、行政

会議頻度：月1回程度

取組内容：H27 課題の明確化  
避難行動の検討  
H28 安否確認方法の検討  
計画書とりまとめ

平成29年3月11日完成！

星崎学区(名古屋市中区)

星崎学区地区防災計画  
(地震編)



平成29年3月11日

星崎学区連絡協議会

(星崎学区防災安心まちづくり委員会)



### 3. 地区防災計画と合わせて行った活動

#### ①住民への普及啓発

アンケート(H27実施)により課題が明確化した「木造住宅の耐震化」「家具家電の転倒防止対策」の啓発

#### ②助け合いの仕組みづくりの推進

災害時避難行動要援護者からの手あげ方式により、把握を行い、個別支援計画書を作成(H28.10月現在110名)

#### ③協力・連携関係の構築

大規模災害が発生した場合、一学区だけでは対応しきれないことも想定され、隣接学区との協力・連携を図る

隣接学区のハザード・防災資源・社会資源も調査し、相互に活用する



## 4. 計画作成中に気付いた課題（抜粋）

### ①住宅の耐震化・家具の転倒防止策が進んでいない

防災への意識は高いが、各家庭で行う自助の取り組みが遅れていることがわかった

### ②災害時要援護者支援マニュアルの作成

学区内の約20%が、自力避難が困難であり、学区全体で減災に取り組むことにより被災する世帯を極力減らし、被災しなかった人の力をその20%の人に振り向ける仕組みを作る



# 5. 防災活動における助け合いの仕組みづくり

## 顔の見える関係 “絆” づくり

- ①高齢者世帯は家具の固定など難しいこともあるので、家具固定の担い手を確保し、そのお手伝いをする
- ②災害発生時にだれがだれを助けることになるのかは、起こってみないと分からないので、災害発生時には、お互いに助け合うという意識を持ち、いざという時に連携が取れるよう、日頃から隣近所と顔の見える関係を作っておく



## 6. おわりに

星崎学区では、地区防災計画策定の議論を通して、その目的とする「共助」に向けて議論を重ねてきた結果、多くの取り組むべき課題を整理することができました

また、これを期に、これまでの「やらされる防災」から「（私たち自身が）やらなければならない防災」に変わりつつあります

当初は「自助」の議論に偏りがちでしたが、次第に「自助」を基本としつつも、それを積み上げていくことが「近助」「共助」につながるということに気づくことができました

各家庭、各組、各町内そして学区という各階層で行うべきことが整理され「自助から積み上げる共助」がうまく噛み合わさることが、地区防災計画策定の目標としてきたところです

